

令和3年度 学力向上プラン

学校名 中央区立城東小学校

学校の教育目標

- 心豊かで思いやりのある子 ○自ら考え学ぼうとする子 ○進んで正しいことをする子
 ○最後までねばり強くがんばる子 ○健康に気をつけ体をきたえる子

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- 子どもが分かる授業
 ○基礎・基本の学力の定着と思考力・表現力・判断力の育成

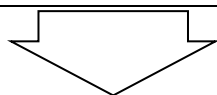
令和2年度「学習力サポートテスト」や令和2年度学力向上プランの検証結果等の分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因（加筆）令和3年度「学習力サポートテスト」から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度学習力サポートテストにおいて、校内平均正答率が中央区の平均正答率をほぼ上回っている。その中で、「言語についての知識・技能」に課題が見られる。 令和3年度学習力サポートテストにおいて、すべての観点で校内平均正答率が全国の平均正答率を上回っている。その中で、「漢字を書く」は、課題が見られる。 令和2年度学習力サポートテストにおいて、ほぼすべての観点で中央区の平均を上回っているが、正答率の分布において上位と下位の児童の差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「言語についての知識・技能」において、言葉の学習に関する内容に課題があることから、日常生活で使う語彙力が十分でない。 ●「漢字を書く」に課題があることから、前学年に配当されている漢字を正しく身に付けるための反復練習が十分でない。 基礎・基本の学習を繰り返し行う中で、学力の定着が難しかったり、活用がうまくできなかったりする児童の個別学習が十分でない。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度学習力サポートテストにおいて、すべての観点で中央区の平均を上回っている。単元として「数の仕組み」や「分数」の項目に課題がある。 令和3年度学習力サポートテストにおいて、すべての観点で中央区の平均を上回っているが、 ●内容として「分数と小数」「分数の計算」は、区の平均を下回る。 令和2年度学習力サポートテストにおいて、与えられた情報を読み取って問題に答えたり、図形について性質を使って説明したりする記述の問題に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 概数に表す時の条件を間違えてしまったり、帯分数の繰り上げなどを間違えてしまったりしていることから、正しい手順で解いていくことが不十分である。 ●分数と小数の大小比較や、通分など共通な分母にそろえて比較する課題を不得手とする傾向にある。 記述問題での無回答の割合が他の問題よりも多いことから、必要な事柄を読み取ったり、順序立てて説明したりする力が十分でない。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度学習力サポートテストにおいて、すべての観点においては、中央区の平均を上回っている。単元として、「県の様子」における地図の見方について課題がある。 社会的事象について複数の資料をもとに考えたり、工夫を考えたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図や地形の断面図など、資料を用いる技能が不十分である。 資料の読み取り、活用する力が不十分であるために、自分の考えを記述することに影響が出ている。

理科	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度学習力サポートテストにおいて、「魚のたんじょう」や「1年間の動物の様子」など生き物についての学習に課題が見られる。 令和2年度学習力サポートテストにおいて、「観察・実験の技能」において、顕微鏡の使い方や、折れ線グラフの描き方などに課題が見られる。 令和3年度学習力サポートテストにおいて、平均正答率ほどの学年も中央区の平均を上回っているが、 <ul style="list-style-type: none"> ●「天気の変化」「植物の発芽と成長」「顕微鏡の使い方」「植物の花のつくりと実」において、正答率が中央区や全国平均より下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「生命・地球」の領域の学習で、体験を通じた学習が不十分である。 観察や実験をする際に、器具やグラフなどを利用して学習を進める経験が十分でない。 ●全体的に「自然」や「植物」を扱った問題に課題が見られる。コロナ禍による休校や校舎移転の影響で実体験を伴った学習が十分にできなかったことが一因と考えられる。
英語	<ul style="list-style-type: none"> アルファベットや短文を書くことに課題がある。 自分の気持ちを英語で表現して対話することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 大文字、小文字の区別に気を付けて書いたり、自分で考えた文を書いたりする時間が十分でない。 英単語の習得や、個別でALTと話す機会が十分でない。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストにおいて、ソフトボール投げが全国平均より下回っており、投げる運動に課題がある。 ゴール型やネット型の運動で、ボールを投げたりキャッチしたり、打ったりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの種目の経験不足や正しい投げ方、走り方の理解が十分でない。 ボールを扱う経験が十分でない。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの考えを認め、高め合える人間関係を築く。 校内、教室を落ち着いて学習に取り組める環境を整える。 東京ベーシック・ドリルの診断テスト及びドリルパークを実施し、前学年の学習の定着を把握し、補習を行う。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価の児童アンケート「友だちと仲よく生活していますか」「学校の約束を守っていますか」において、共に肯定的な回答が85%以上となる。 東京ベーシック・ドリル診断テストにおいて、各学年の正答率が85%以上となる。
②授業改善	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習のめあてが明確で分かりやすい授業をする。 学習の基礎・基本を確実に定着させる。 タブレット端末を活用して学習の個別最適化を図る。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価の保護者アンケート「学校は電子黒板等 ICT 機器を十分活用している」において、肯定的な回答が85%以上となる。
③教員の指導力	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内研究を通して、問題解決型の授業力を身に付け、児童に学習への関心・意欲を高める指導を行う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用した指導を行う。 【指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校公開アンケート「教員は、わかりやすく、工夫した授業を行っていた」において、肯定的な回答が85%以上となる。
④家庭との連携	【目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校の方針、取組等を保護者にきちんと伝え、子どもの成長を共に支えてもらえるようにする。 【指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の保護者アンケート「学校は保護者に出す文章や連絡等は、わかりやすく内容も適切である」において、肯定的な回答が85%以上となる。
⑤体力向上	【目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・運動量の確保とマイスクールスポーツ、オリンピック・パラリンピック教育の推進により、児童の基礎体力の向上を図る。 【指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・児童の運動に取り組む満足度による肯定的な意見が85%となる。



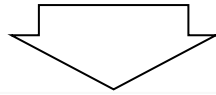
【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	たてわり班活動を柱とした取組を推進し、互いを認め合う雰囲気醸成する。
取組Ⅱ	生活指導夕会の充実や日頃からの情報共有を通して、児童理解と学習規律について徹底を図る。
取組Ⅲ	東京ベーシック・ドリル、ドリルパーク等を活用したアフタースクールを実施し、各学年での基礎学力の定着を図る。
②授業改善	
取組Ⅰ	タブレット端末や大型提示装置、実物投影機等を活用して事象提示を工夫し、様々な資料に触れさせ読み取る機会を増やしたり、実際には見ることのできない映像を見て、体験的な学習活動を補完したりすることで授業改善を図っていく。
取組Ⅱ	校内研究を活かし、理科・算数の授業を中心に、問題解決型の学習活動を展開することで、筋道を立てて説明する場を設け、授業改善を図っていく。
取組Ⅲ	授業中に、タブレット端末を活用し、ドリルパークなどで漢字や計算を繰り返し練習する時間を設けるなど、一単位時間の授業構成を工夫することで授業改善を図っていく。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	OJTとして、それぞれの教員が授業を公開し合い、タブレット端末の活用を進めるとともに、指導力向上に努める。
取組Ⅱ	校内研究授業を年6回行い、互いの指導力向上に努める。その研究授業の中で、理科・生活科4回、算数2回の研究授業を行い理数教育の向上に努める。
取組Ⅲ	教員が区の研究会や、研修会で学んだ指導技術や指導案などの資料を他の教員と共有し、指導力向上に努める。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	全校保護者会の前に、管理職から保護者への学校の取組について説明の機会を設定することで、家庭との連携を高める。
取組Ⅱ	入学前の家庭に対して、面談を行う。また、1学期に全学年面談を行うことで、家庭との連携を高める。
取組Ⅲ	毎月ホームページを更新し、学校の取組を発信し、家庭に学校教育への関心を高めてもらうことで家庭との連携を高める。

⑤体力向上	
取組Ⅰ	短縄、長縄の取組のキャンペーンを設定し、全校で取り組み、体力向上に努める。
取組Ⅱ	セントラルスポーツなど、外部の講師を招き、各種スポーツ教室を行い、体力向上や技能向上に努める。
取組Ⅲ	体育の学習の学習において、運動量の確保を確実に図るとともに、場の設定の工夫をすることで運動の質を高め、体力向上に努める。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
① 学力基盤	<ul style="list-style-type: none">・ たてわり班掃除、たてわり班遊び・集会、音楽朝会などを通じて、異学年交流を図り、上学年児童は下学年児童に対して面倒を見たり優しく接したりする姿が多く見られ、児童アンケート「友だちと仲よく生活していますか」でも97%が肯定的な回答であった。・ 生活指導夕会を毎週行うことで、個々の児童の特性や、生活のきまり等を共通理解することができ、全校体制での指導を行うことができている。児童アンケート「学校の約束を守っていますか」でも88%が肯定的な回答であった。・ 上記2点からも、人間関係の構築や環境を整えることには一定の成果があった。・ 東京ベーシック・ドリルで3年生において正答率85%、4年生において正答率93%を達成することができた。また、東京ベーシック・ドリルの結果をもとに、アフタースクールを活用して、習熟の不十分な児童に対して補充の学習をすることができた。	<ul style="list-style-type: none">・ 左記の通り一定の成果はあったものの、コロナの影響によりたてわり班活動に制約があり、例年通りには行えないものも多かった。自己肯定感を高めるために間接的なかわり方を含めて工夫が求められる。また、児童数増加に伴い活動の見直しが必要である。・ 生活指導上のルールを教員間でさらに共通理解を図り指導を徹底するとともに、引き続き始業、終業のあいさつをはじめ、学習規律などを指導に重点を置いて進める必要がある。・ 考え方は理解しているが、ケアレスミスのために正答に至らない児童が多く見られた。問題を丁寧に読み取り、取り組むよう指導する必要がある。
② 授業改善	<ul style="list-style-type: none">・ 理数学習を中心として、毎時間の学習のめあてを明確にしなが、基礎・基本の定着を図ってきた結果、保護者アンケートの「確かな学力の向上」では肯定的な回答が79%、児童アンケートの「授業の内容はよくわかりますか」では肯定的な回答が100%の肯定的な回答があった。・ 昨年度より、理科・生活科に加えて算数科にも問題解決型の学習を水平展開することができ、問題解決型の学びが児童に定着し、主体的に問題に取り組む児童が多くなった。・ タブレット端末などのICT機器を各学年で積極的に使用するとともに、プロジェクター及び大型提示装置、実物投影機を使用することで、児童の興味・関心を高めることができた。保護者アンケートのICTに関する項目「発達段階に応じてタブレット端末	<ul style="list-style-type: none">・ 基礎・基本の定着を一層図るために、習熟度別や課題別などの工夫をし、個に応じた指導をより充実させることが必要である。・ 理数学習を中心とした問題解決型学習をさらに充実させる必要がある。・ タブレット端末を授業でさらに活用していくとともに、プログラミング教育の充実を図る必要がある。

	<p>を学習に取り入れている」では、90%の肯定的な回答があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字や計算の習熟の時間を授業中や学期末などにとることで定着が図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台導入されたタブレット端末を活用し、発達段階に応じた個別および協働学習をさらに充実させる必要がある。
<p>③教員の指導力</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響により例年より少なかったが、OJTとして授業を参観し合い学び合うことができた。保護者アンケートでは、「学校は学習内容がわかりやすく楽しい授業をしている。」において、肯定的な回答が92%であった。 校内研究授業（実践授業）を理科・生活科で3回、算数科で2回、課題研究発表で1回行うことにより、教員の指導力の向上につながった。また、中央区の教育関係者に「城東理数ニュース」を発行し、授業のポイントについて周知することで、中央区の理数教育の向上にも貢献することができた。 校内でICT研修会などを通して情報の交流を行い教員の指導力を向上させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究において、理数学習を中心に問題解決型学習をさらに充実させるとともに、外部の研修会などで学んだことを校内に還元させて、一層の教員の指導力向上を図る。 引き続きタブレット端末など、ICTの活用した授業の情報をさらに交流して指導力を高めていく必要がある。
<p>④家庭との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響があったが、感染防止対策を講じた上で、全体保護者会を開き、学校の取り組みや家庭への協力について伝えることができた。また、安全安心メールを活用し、学校から保護者への連絡を行い、家庭との連携を途絶えさせないようにすることができた。 保護者アンケートでは、「学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切な対応をしている」において、肯定的な回答が90%であった。 就学前の家庭と個人面談を行うとともに、全学年で個人面談を実施し、家庭との連携を高めることができた。 ホームページやClassroomにて学校だよりや保健室だより、学年だよりなどを毎月更新したり、学校公開や書き初めのオンライン配信を行ったりするなど、コロナ禍においても学校教育への関心を向けてもらい、学校の取組について地域や保護者に理解してもらうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響がある中でも、保護者と連携が取れる体制を継続して構築していく必要がある。 個人面談以外での日常の連携をさらに高めていく必要がある。 学校公開で保護者が学校に来られないなどの状況でも、学校教育の取り組みを保護者に継続して伝えていけるよう、さらにホームページやオンライン配信での保護者限定公開などの活用を図っていく。

<p>⑤体力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・短縄、長縄の活動に学校全体で取り組むことにより、児童の運動に対する意識が向上し、児童アンケートにおいて、「自分の体力づくりに取り組んでいますか」の肯定的な回答が87%と、昨年度より12ポイント上がった。 ・セントラルスポーツなど、外部の講師を招き、各種スポーツ教室を行うことで、児童の運動についての興味・関心が高まり、体力や技能の向上に成果がみられた。 ・体育朝会を通して、準備運動や運動の質を高める取り組みなどを全教員で共有し、体育の学習に活かすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体での取組に加え、各学級での活動を充実させていく必要がある。 ・体力・運動能力・生活習慣等調査をもとに、児童の課題を把握し、その解決のために各種スポーツ教室を効果的に行う。また、教員の校内研修会を設け、児童の一層の体力向上を図る。 ・コロナ禍の影響もあり、児童が体を動かす機会をもちづらい状況である。その中での意識の向上を認め、引き続き学校全体で日々の体育学習に工夫して取り組む必要がある。
--------------	--	---